

## 学習指導要領の趣旨を踏まえた 授業の質的改善に 役立つツール

学習指導要領(平成29年3月告示)では、「生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うこと」が求められています。生徒の資質・能力を育むために、自らの授業を見直し、質的に改善を図ることが大切です。

このリーフレットは、先生方に、授業の質的改善に役立ててもらおうと、教育センターにおいて作成したものです。

日々の授業や研修会などで、ぜひご活用ください。

### 目次

- |   |                           |      |
|---|---------------------------|------|
| 1 | 授業の質的改善の手順                | P1   |
| 2 | 「授業振り返りシート」及び「手立てシート」の使い方 | P2   |
| 3 | 「授業振り返りシート」               | P3~4 |
| 4 | 「手立てシート」                  | P5~6 |

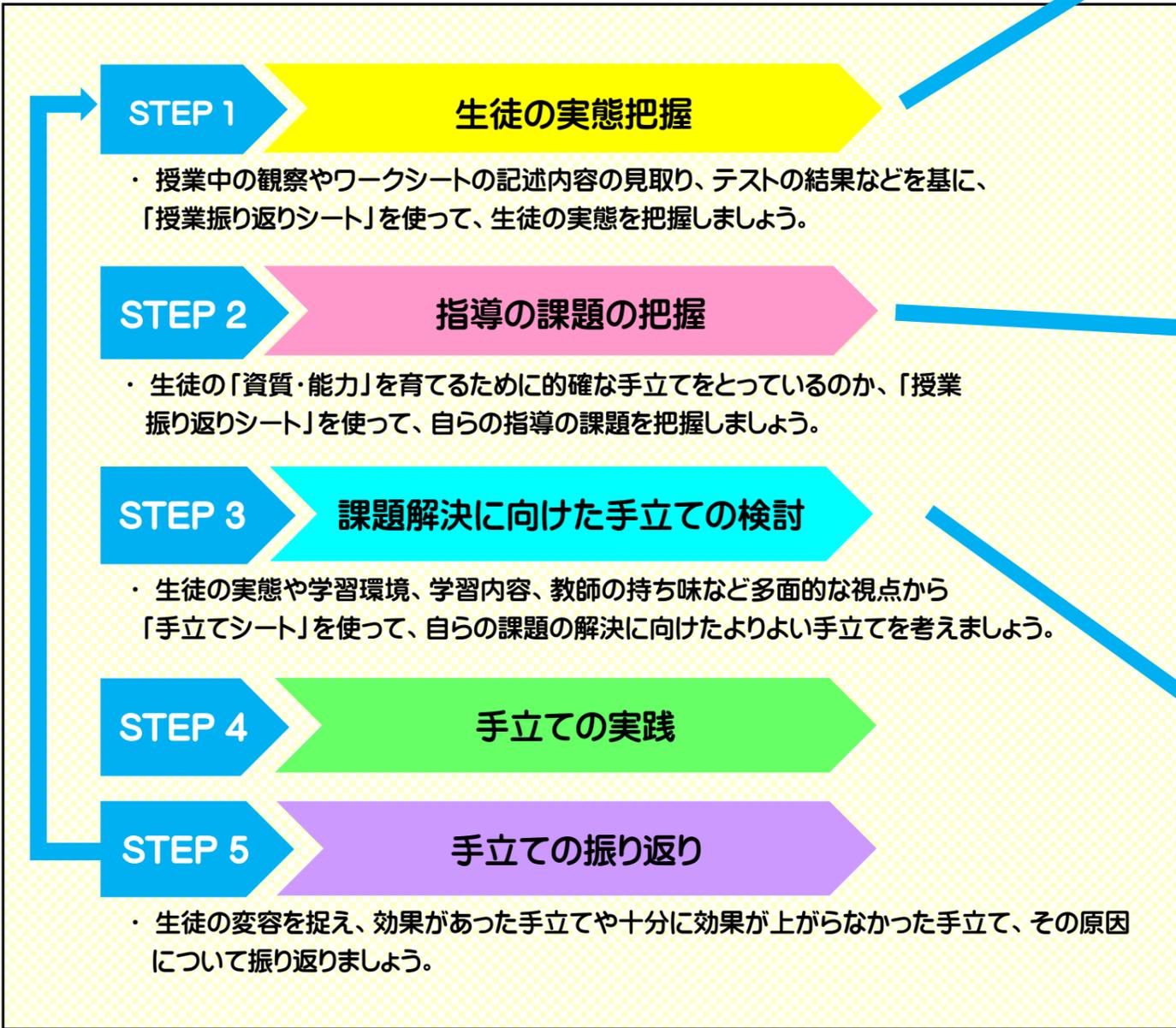
Scan!!!



Scan!!!

# 授業の質的改善の手順

「主体的・対話的で深い学び」を実現し、生徒の「資質・能力」を育成するために、以下の5つのステップで授業の質的改善に取り組みましょう。



普段の授業の**不断**の見直しを図っていきましょう！



# 「授業振り返りシート」及び「手立てシート」の使い方

## STEP 1

### 生徒の実態把握

「授業振り返りシート」の「①生徒の実態を学習過程に沿って見てみましょう。」を基に、生徒の実態を把握しましょう。

**① 生徒の実態を学習過程に沿って見てみましょう。**  
クラスの多くの生徒ができています。→(○)  
 クラスの半分程度の生徒ができています。→(△)  
 クラスのほとんどの生徒ができていない。→(×)

1 単元の学習を通して、どのような力を身に付けるのか理解している。 ( )

2 単元のスタートに、単元ゴールのOutput活動について、具体的に理解している。 ( )

3 単元ゴールのOutput活動に興味・関心をもっている。 ( )

生徒の実態を○・△・×でチェックし、何ができていて何ができていないのか、把握しましょう！



## STEP 2

### 指導の課題の把握

「授業振り返りシート」の「②自分の授業づくりを振り返りましょう。」を基に、指導の課題を把握しましょう。

**② 自分の授業づくりを振り返りましょう。**  
できている。→(○)  
 あまりできていない。→(△)  
 ほとんどできていない。→(×)

ア 単元の学習を通して身に付けさせたい力を明確にして、学習指導計画を立てている。 ( )

イ 単元のスタートに、単元ゴールのOutput活動の目的や場面などについて生徒に具体的に示している。 ( )

ウ 生徒が単元ゴールのOutput活動に興味をもち、取り組みたいと感じることができるよう学習活動を設定している。 ( )

自分の授業を○・△・×でチェックし、指導の課題を把握しましょう！



## STEP 3

### 課題解決に向けた手立ての検討

「授業振り返りシート」の「③『手立てシート』を用いて、改善につながる手立てを確認しましょう。」を基に、どのような手立てが必要か考えてみましょう。

**③ 「手立てシート」(p5-p6)を用いて、改善につながる手立てを確認しましょう。**

ア→主-D  
 深-B  
 イ→主-C・D・F

「手立てシート」で改善につながる手立てを確認しましょう。

【手立ての見方】  
**主-A**⇒主体的な学びの手立てA  
**対-A**⇒対話的な学びの手立てA  
**深-A**⇒深い学びの手立てA  
 となっています。



# 授業振り返りシート

単元における学習過程に沿って振り返ってみましょう！



授業の質的改善の手順	① 生徒の実態を学習過程に沿って見てみましょう。 <small>クラスの多くの生徒ができています。→(○) クラスの半分程度の生徒ができています。→(△) クラスのほとんどの生徒ができていない。→(×)</small>	② 自分の授業づくりを振り返りましょう。 <small>できている。→(○) あまりできていない。→(△) ほとんどできていない。→(×)</small>	③ 「手立てシート」(p5-p6)を用いて、改善につながる手立てを確認しましょう。
<b>学習過程 1</b> 単元ゴールの把握	1 単元の学習を通して、どのような力を身に付けるのか理解している。 ( ) 2 単元のスタートに、単元ゴールのOutput活動について、具体的に理解している。 ( ) 3 単元ゴールのOutput活動に興味・関心をもっている。 ( ) 4 単元ゴールの達成に向けて、どのような学習活動をするのか見通しをもっている。 ( )	ア 単元の学習を通して身に付けさせたい力を明確にして、学習指導計画を立てている。 ( ) イ 単元のスタートに、単元ゴールのOutput活動の目的や場面などについて生徒に具体的に示している。 ( ) ウ 生徒が単元ゴールのOutput活動に興味をもち、取り組みたいと感じることができるよう学習活動を設定している。 ( ) エ 単元ゴールの達成に向けて、どのような学習活動を行っていくか生徒に具体的に示している。 ( )	ア→主-D 深-B イ→主-C・D・F ウ→主-B・C・E・F 対-A・B 深-A エ→主-E・G 対-B
<b>学習過程 2</b> 単元ゴールの達成に向けた学習活動	5 学習活動に見通しをもち、粘り強く取り組んでいる。 ( ) 6 語彙や表現、文法などを実際のコミュニケーションの場面と関連付けて習得している。 ( ) 7 辞書やインターネットなどを活用して学習活動に取り組んでいる。 ( ) 8 ペアやグループで協力して学習活動に取り組んでいる。 ( ) 9 4技能5領域において、コミュニケーションを図る力をバランスよく身に付けている。 ( )	ア 学習活動の目的や内容、ゴールの姿などを分かりやすく示している。 ( ) イ 学習活動に興味・関心をもたせるための工夫をしている。 ( ) ウ 生徒が語彙や表現、文法などの基礎的・基本的な知識を、実際のコミュニケーションの場面と関連付けて習得することができるように工夫をしている。 ( ) エ 生徒が自分で調べたり、他者と協力して学習したりする場を設けている。 ( ) オ 技能統合型の言語活動を設定し、4技能5領域にわたってコミュニケーションを図る力を総合的に育成できるよう工夫している。 ( )	ア→主-H・M イ→主-B・K・N・O・P 深-C ウ→主-A・C・H・I 対-C 深-D エ→主-P 対-D・E・F 深-E オ→主-J 対-D 深-D
<b>学習過程 3</b> 単元ゴールのOutput活動	10 単元ゴールのOutput活動において、どのようなことができるようになりたいか目標を立てている。 ( ) 11 知識や技能を活用し、コミュニケーションの場面や相手に応じて、課題を解決しようとしている。 ( ) 12 クラスメートと協力して課題を解決しようとしている。 ( ) 13 単元ゴールのOutput活動の途中や最後に、自分のパフォーマンスを振り返り、よりよいものにしようとしている。 ( )	ア 単元ゴールのOutput活動において、達成すべきゴールの姿を具体的に示している。 ( ) イ 単元ゴールのOutput活動が、コミュニケーションの目的や場面、状況が明確になるように設定されており、知識や技能を活用する場になっている。 ( ) ウ クラスメートと協力して課題を解決したり、学び合ったりする場を設けている。 ( ) エ 自己の振り返りや、教師やクラスメートからのフィードバックを生かし、自分のパフォーマンスを修正したり改善したりできる場を設けている。 ( )	ア→主-L イ→対-G 深-F ウ→主-Q 対-H 深-E エ→主-Q 対-H 深-E
<b>学習過程 4</b> 単元のまとめと振り返り	14 単元の学習を通して、何がどれくらい分かり、できるようになったかについて自覚している。 ( ) 15 次の学習への見通しや意欲をもっている。 ( )	ア 単元の学習内容の習得状況や個人の成長を振り返る場を設けている。 ( ) イ 単元の学習を通して身に付けたことを、次の学習につなげさせる手立てを取っている。 ( )	ア→主-R 対-I イ→主-S 対-J 深-G

# 手立てシート

佐賀県教育センターHPに詳細バージョンを公開しています。



	学習過程 1 単元ゴールの把握	学習過程 2 単元ゴールの達成に向けた学習活動	学習過程 3 単元ゴールのOutput活動	学習過程 4 単元のまとめと振り返り
主体的な学び	<p><b>A</b> 英語を使ってコミュニケーションを図る機会を充実させるために、授業は英語で行い、授業が実際のコミュニケーションの場となるようにする。</p> <p><b>D</b> 達成すべき単元ゴールや単元ゴールのOutput活動を基に、バックワードデザイン(逆向き設計)で具体的な単元の学習指導計画を立てる。</p> <p><b>E</b> 単元ゴールを生徒と共有するために、CAN-DOリストやRubricなどを活用する。</p> <p><b>F</b> 単元ゴールのOutput活動は、コミュニケーションの必然性があるオーセンティックな活動を設定する。</p> <p><b>G</b> 単元ゴールの達成に向けて、どのような学習活動を行うか生徒と共有するために、単元の学習計画表を示す。</p>	<p><b>B</b> 生徒が英語を使ってコミュニケーションを図ることを楽しみ、間違いを恐れずに学習することができるような雰囲気づくりを行う。</p> <p><b>H</b> 生徒が実際のコミュニケーションにおいて、習得した語彙や表現、文法などを活用することができるように、Teacher Talkやビジュアル教材などでモデルを示す。</p> <p><b>I</b> 生徒が単元ゴールの達成に必要な語彙や表現、文法などを習得することができるように、実際のコミュニケーションの場面の中で繰り返し使う場を設定する。</p> <p><b>J</b> 生徒が4技能5領域をバランスよく身に付けることができるように、読んだことについて感想を述べたり、聞いたことについてメモを取ったりするなど、複数の技能を統合して行う言語活動を設定する。</p> <p><b>K</b> 生徒が自分の成長を実感したり、達成感を味わったりすることができるように、場面設定を変えながら習得した語彙や表現、文法などを繰り返し使う場を設定する。</p> <p><b>M</b> 生徒の実態に応じて、学習活動を行う目的や手順、ポイントなどを、視覚的に提示したり、具体例を示したりする。</p> <p><b>N</b> 学習に対する興味・関心を引き出すために、生徒の実態や学習の目的に応じた教材を選択する。</p> <p><b>O</b> 生徒の実態に応じて、スモールステップで指導したり活動やワークシートのレベルを調整したりする。</p> <p><b>P</b> 生徒が自力で課題を解決することができるように、課題解決の手順やヒント、辞書やインターネットの活用方法など、必要な情報やツールを提示する。</p> <p><b>Q</b> 生徒が活動の途中で、自分のパフォーマンスの良い点や改善点を把握することができるように、教師やクラスメートからフィードバックを得る場を設定する。</p>	<p><b>C</b> 生徒が実際に英語でコミュニケーションを図る体験を通して、英語を学習する目的や意義、必然性などに気付くことができるようにする。</p> <p><b>L</b> 生徒がどのようなことができるようになりたいか目標をもつことができるように、達成すべきゴールの姿をCAN-DOリストやRubricなどで具体的に示す。</p>	<p><b>R</b> 生徒が単元の学習を通して、できるようになったことや今後の改善点などについて振り返る場を設定する。</p> <p><b>S</b> 生徒が自分の学習到達状況を把握し、次の学習に向けた目標を立てる場を設定する。</p>
	<p><b>A</b> 生徒が題材に関わる新たな知識を得ることができるように、ペアやグループでシェアリングしたりビジュアル教材を活用したりする場を設定する。</p> <p><b>B</b> 学習への動機付けを高めるために、単元でこれから学ぶことや課題解決に向けた解決策について、ペアやグループでシェアリングする場を設定する。</p>	<p><b>C</b> 生徒が教師の話や教師とのやり取りから表現を学ぶことができるように、Teacher TalkやClassroom Englishでは、生徒にとって少しレベルが高い表現まで使用する。</p> <p><b>D</b> 生徒が単元ゴールの達成に必要な語彙や表現、文法などを習得することができるように、読んだり聞いたりして得た情報について、生徒同士でシェアリングする場を設定する。</p> <p><b>E</b> 生徒同士でパフォーマンスを見せ合い、良い点や改善点をシェアリングすることで、自分の課題に気付いたり、よりよいものを作り上げるためのヒントを得たりする場を設定する。</p> <p><b>F</b> 生徒が自分のパフォーマンスの修正・改善を図ることができるように、活動の途中で、個別の見取りやペアやグループでのシェアリングから気付いたことをクラス全体で共有する場を設定する。</p>	<p><b>G</b> 生徒が相手意識をもってやり取りや発表を行うことができるように、コミュニケーションを行う目的や場面、状況を具体的に示す。</p> <p><b>H</b> 生徒が活動の途中で、自分のパフォーマンスの良い点や改善点などを具体的に把握することができるように、CAN-DOリストやRubricなどを用いて、互いのパフォーマンスを評価する場を設定する。</p>	<p><b>I</b> 生徒が単元の学習を通して、できるようになったことや今後の改善点などについて自覚できるように、生徒同士でシェアリングする場を設定する。</p> <p><b>J</b> 生徒が同学年又は異学年で学び合うことができるように、掲示板や教科通信を活用し、生徒作品をシェアリングする。</p>
	<p><b>A</b> 生徒が自分の体験や既知の情報と関連付けて深く考えることができるように、オーセンティックな教材の準備や学習課題の設定などを行う。</p> <p><b>B</b> 単元ゴールのOutput活動を課題解決的なものにし、単元の習得・活用・探究という学びの過程の中で、生徒がその解決に迫ることができるようにする。</p>	<p><b>C</b> 生徒の気付きや意見を引き出したり、生徒に深く考えさせたりする発問を行う。</p> <p><b>D</b> 授業をインタラクティブに展開し、実際のコミュニケーションの場面の中で、複数の技能を統合して英語を使う場を設定する。</p> <p><b>E</b> 生徒が学習内容を深く理解することができるように、他者との対話を意図的に仕組み、自分の考えを見直したり修正したり新しい学びを加えたりする場を設定する。</p> <p><b>F</b> 今後の授業や家庭学習において、習得した知識や技能を繰り返し活用したり、既知の情報と関連付けて理解したりする場を設定する。</p>		<p><b>G</b> 生徒が単元の学習内容を既習の知識と結び付けたり、単元の学習を通してどのような変容があったか気付いたりすることができるように、振り返る場を設定する。</p>

主体的な学び

対話的な学び

深い学び

# 授業振り返りシート

日々の授業で、自分自身の取組状況を確認しましょう。

## 自分の授業づくりを振り返りましょう。

できている。→(○) あまりできていない。→(△) ほとんどできていない。→(×)  
でチェックし、指導の課題を把握しましょう！



<p>学習過程 1</p> <p>単元ゴールの把握</p>	<p>ア 単元の学習を通して身に付けさせたい力を明確にして、学習指導計画を立てている。 ( )</p> <p>イ 単元のスタートに、単元ゴールの Output 活動の目的や場面などについて生徒に具体的に示している。 ( )</p> <p>ウ 生徒が単元ゴールの Output 活動に興味をもち、取り組みたいと感じることができるように学習活動を設定している。 ( )</p> <p>エ 単元ゴールの達成に向けて、どのような学習活動を行っていくか生徒に具体的に示している。 ( )</p>
<p>学習過程 2</p> <p>単元ゴールの達成に向けた学習活動</p>	<p>ア 学習活動の目的や内容、ゴールの姿などを分かりやすく示している。 ( )</p> <p>イ 学習活動に興味・関心をもたせるための工夫をしている。 ( )</p> <p>ウ 生徒が語彙や表現、文法などの基礎的・基本的な知識を、実際のコミュニケーションの場面と関連付けて習得することができるように工夫をしている。 ( )</p> <p>エ 生徒が自分で調べたり、他者と協力して学習したりする場を設けている。 ( )</p> <p>オ 技能統合型の言語活動を設定し、4技能5領域にわたってコミュニケーションを図る力を総合的に育成できるよう工夫している。 ( )</p>
<p>学習過程 3</p> <p>単元ゴールのOutput活動</p>	<p>ア 単元ゴールの Output 活動において、達成すべきゴールの姿を具体的に示している。 ( )</p> <p>イ 単元ゴールの Output 活動が、コミュニケーションの目的や場面、状況が明確になるように設定されており、知識や技能を活用する場になっている。 ( )</p> <p>ウ クラスメートと協力して課題を解決したり、学び合ったりする場を設けている。 ( )</p> <p>エ 自己の振り返りや、教師やクラスメートからのフィードバックを生かし、自分のパフォーマンスを修正したり改善したりできる場を設けている。 ( )</p>
<p>学習過程 4</p> <p>単元のまとめと振り返り</p>	<p>ア 単元の学習内容の習得状況や個人の成長を振り返る場を設けている。 ( )</p> <p>イ 単元の学習を通して身に付けたことを、次の学習につなげさせる手立てを取っている。 ( )</p>

この授業振り返りシートは、3ページ、4ページの一部を示しています。

3ページ、4ページを使って、継続的にチェックを行い、手立てシートを参考に、自らの授業をさらによりよいものにしていきませんか。